

## 式 辞

白砂の丘に広がる松の緑は、厳しい季節にあっても色濃く深く、生命力みなぎる、ゆるぎない存在感を示しております。

目の前には、美しく煌めく白銀の鳥海が、春の息吹をともなうて、ふるさとに生きる人々に、安らぎと勇気を与えてくれます。

この素晴らしい教育環境のもと、長引くコロナ禍にあっても、さまざまな規制を乗り越え、節度ある挑戦を継続した末に、今ここに歓喜の瞬間を迎えることができました。

本日、大安の良き日に、第43回秋田県立仁賀保高等学校卒業証書授与式の挙行にあたり、御臨席を賜りました保護者の皆様、御来賓の皆様に、心から感謝を申し上げます。

ただいま卒業証書を手にした60名の皆さん、御卒業おめでとうございます。

平成31年4月8日、この場で入学を許可して以来、「師友もろとも手を取りて」唯一無二の経験を積み上げ、今日を迎えることができました。

皆さんの、希望に満ちた門出に立ち会えて、私自身、大きな幸せを感じております。

にかほ市と、運命的な連携協定を結び、新たに、総合的な探究活動を開始した令和元年度は、秋田県教育委員会のバックアップもいただきながら、本校でしか体験できない、スペシャルな教育がスタートした、改革元年でもありました。

卒業生の皆さんは、大きな教育改革の歴史的転換期に選ばれて、仁賀保高校の門をくぐったのです。

皆さんは、この3年間、「いちじく、番楽、ジオパーク」というオリジナルな学びを先導するナビゲーターとして、手探りで始まった総合的な探究活動を牽引してくれました。

今年度、3つの学びを踏まえた、地域課題の解決と活性化について思考し、表現する発表の大舞台上、威風堂々と大胆な提言を披露しました。

まさに「仁高でつなごう地域と未来」のキャッチフレーズを証明する、すばらしい成果を残しました。

昨年度中止を余儀なくされた伝統行事、全校鳥海登山の再開は、「自分事と当事者意識」をテーマに掲げた、今年度の仁賀保高校を象徴する思い出となりました。

登山では、安全・安心の確保が、極めて重要です。

コロナ禍で、医療現場も大変な状況でしたが、医療チームや地域の皆様、保護者の御理解・御協力によって、慎重に準備を進め、実施にこぎつけました。

本校でしか味わえない「鳥海登山学」を通して、人間は自然の中では、本当に小さな存在であること、しかし、小さな存在だからこそ、お互いに助け合いながら、自然を理解し協力して、頂を目指す過程のなかに、大切な学びがあることに気づき、感動を共有できました。

さらに、新たな挑戦として、準備段階の職員会議に、生徒の代表を招き、安全と安心の確保を、当事者として確認しながら、計画を立てる機会を設けました。

この先駆的な取り組みは、今後の教育活動でも継承して、生徒に、当事者意識や信頼と責任の重要性を学んでほしいと思います。

コロナ禍において、学校行事が中止になった高校も多いなか、きめ細かな対策をとりながら、知恵を出し合い、規模の縮小や運営方法の工夫を踏まえた体育祭・球技大会・仁高祭を開催しました。

これらの実践を通して、生徒の主体性と行動力を信頼し、できないと諦めるのではなく、どうすればできるか、プラス思考で考える大切さを、確実に心に刻むことができたと思います。

各種行事の成功の陰で、常に工夫と改善を加え、生徒のために臨機応変に対応してくれた、教職員の心意気と能力の高さには、驚きと敬意を表します。ありがとうございました。

さて、いよいよ4月から「18歳成人」が制度としてスタートします。

卒業生の皆さんには、大人として振る舞い、地域社会の一員として、誰かのために、自分の能力を惜しみなく発揮することを期待します。

その際、常に他者を尊重し、行動の「根拠」を明確にして、信念を忘れずに、困っている人に寄り添ってください。

「自分の周囲にいる人を笑顔にしたい、幸せにし

たい」という思いが、地域貢献に繋がってゆくでしょう。

人間には、「誰かのために」と心に念じた瞬間、希望が生まれてきます。

希望を持つことによって、生きる力が湧き出でて、輝きを放つ存在になるのです。

時代は、デジタル人材の育成を目指し、合理化、効率化の中で、同時に多様性の尊重という、難しい選択を求めてきます。

皆さんは、誰かに判断を委ねることなく、自分の意志で、他者を尊重し、周囲の人を笑顔にできる方法を考えて、実践してください。

0か1かを選択するのではなく、0と1の間にある無数の解のなかから、希望を抱いて、納得解や最適解を導いて欲しいと思います。

忘れないでください。皆さんが、高校生活を送ることができたのは、周囲の支えの賜物です。

今日の良き日を迎えることができたのは、誰のおかげでしょうか。まぶたに浮かぶ人物と情景を心に秘め、大切に保存してください。

保護者の皆様に申し上げます。壇上で凜々しく大きく輝いているお子様を、しっかりと目に焼き付けていただけましたでしょうか。

お子様の誕生から今日まで、様々な御苦勞が、走馬燈のようによみがえってくる心境をお察しいたします。

本校を信頼して、大切なお子様を預けていただき、誠にありがとうございました。

私たち教職員は、生徒からたくさんのお話を学ばせていただきました。そして私たちもまた成長することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

保護者の皆様には、卒業後も本校に対してさらなる御理解と御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご臨席を賜りました皆様、本校は、「地域の発展を心から願い、地域の未来を牽引する人間の育成」に取り組む高校として、デジタルスキルを身につけ、これまで以上に地域の皆様と連携を深め、魅力ある高校を築いてゆく所存です。

巣立つ若者と活動を続ける生徒に、何卒たゆまぬ御厚情を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

終わりに、凜々しくもあり逞しくもある、希望に満ちた卒業生の未来に、幸多かれと念願し、「母校の誉れを継ぎゆかむ」贖（はなむけ）の言葉を贈り、式辞と致します。

仁賀保高校 第43期 卒業生諸君

アイコンタクトを忘れずに  
「世の光なる人たらむ」

令和4年3月1日

秋田県立仁賀保高等学校  
校長 小園 敦